

2022
2月号

福岡地区労連

発行：福岡地区労働組合総連合
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-9-8
ケイ・アイビル2F
TEL 092-433-3338
FAX 092-433-3535 (HPはこちら)
Mail : fukuciku@gmail.com



いのちとくらしと雇用を守る方針確立

福岡地区春闘共闘連絡会議総会 1月23日(日)オンライン開催

福岡地区春闘共闘は、1月23日、コロナ対策のため、会場参加を最小限にして開催しました。22春闘は、コロナ禍でエッセンシャルワーカーの雇用の安定が急務となっており、生計費ベースの賃上げが勝ち取れるかが焦点です。春闘方針では、財界・大企業・政府による春闘破壊攻撃を労働組合が団結で跳ね返す闘いを訴えています。

22春闘方針は、内田事務局長から提案され、「22国民春闘大幅賃上げ・底上げで誰もが希望を持てる公正な社会を、労働組合でいっしょにつくろう」とスローガンとし、とりわけエッセンシャルワーカーの大幅賃上げを企業内中心の運動から国民を含む労働者全体

〈議長あいさつ〉 今だからこそ労働組合



議長 米地輝高

福岡地区春闘は、九州の経済の中心である福岡市に位置します。人口が集中し、天神ビックバンなど開発中心の政策が取られていますが、多くの労働者が非正規雇用などの低賃金と不安定な雇用を強いられ、生活に目途が立たず困窮する者も少なくありません。

22春闘は、国民のいのちを守るエッセンシャルワーカーの賃金労働条件改善は急務です。環境問題では、人類死活問題で地球温暖化問題は待ったなし。手遅れとなる前に対策を講じなければなりません。また、ジェンダーの問題では、日本は先進国の中で一番対策が遅れており、早急に改善するには、社会的風潮や意識の改革に向けた教育が必要です。

22春闘は多くの課題を抱えています。今だからこそ労働組合の出番です。要求実現を目指して、最後まで闘っていきましょう。



春闘勝利に向けて総会決行

コロナ禍で 翻弄される現場の声

総会討論では13人から発言があり、各産別からコロナ禍の職場実態が補足されました。福岡医療団労組の三苦さんは「岸田内閣は、コロナ医療現場の看護

師を対象に2月から9月まで月4,000円の賃金引き上げを閣議決定した。すべての看護師が対象ではないため、医療労働者の分断となる。国に対して改

の運動につながるたかいかであるとのべました。情勢は労働者の実質賃金が20年余1割下がっており、一方で大企業はコロナ禍で利益を増やし、内部留保は459兆円に膨れ上がった。

福岡地区春闘共闘は、4つの要求の柱と4つのアプローチを基調に「いのちを守るたたかい。くらしを守るたたかい。雇用を守るたたかい。」を展開し、22春闘勝利に向けて奮闘していくことが提案されました。

内田事務局長は、皆さんの発言で方針が豊かに補強された。福岡地区春闘共闘は、今春闘を「いのちを守り、暮らしを守り、雇用を守る春闘」と位置付けられた。要求実現の取組みは、組織拡大の観

いのちを守り、暮らしを守り、雇用を守る春闘

善を求める必要がある」と訴えました。福岡地区国公の山崎さんは「子供の学校でコロナ感染による学級閉鎖が起った。子供は陰性だが、職場は在宅勤務を指示。子供を持つ職員の在宅勤務が増え、現場は独身者ばかりに負担がのしかかっている。コロナ禍で出勤における一定のルールが必要だ」と現状を訴えました。

点で臨み、ローカルセクターに結集して闘うことが重要である。また今春闘は国民にとって死活問題である環境問題にも取り組んでいくとまとめを述べました。

(編集委員 内田)



討論で職場環境を伝える

最低賃金 異常な低賃金からの脱却 最低賃金引き上げに声をあげよう

2022年国民春闘は、異常な低賃金からの脱却を重要争点としています。コロナ感染が拡大したこの2年で、特に「国民のいのちと暮らし」を守る行動に力を入れてきました。しかし、安倍・菅自公政権を引き継いだ岸田首相は、20万床の病床削減と公立・公的病院の統廃合など社会保障切り捨てに未だに固執しています。

全労連が取り組んだ「最低生計費試算調査」では、健康で文化的な最低限度の生活に必要な賃金は、若年の単身世帯で月額22万円〜24万円・時給額では1500円以上であり、その額は都市部も地方も変わりません。福岡の最賃は870円です。調査で最低1500円は必要と試算が出ているにも関わらず870円で生活するのは、どれだけ過酷か想像できるかと思えます。

福岡地区春闘共闘連絡会議は、2月18日に地域総行動をおこないます。昨年度は、福岡県中小企業家同友会と

者、高齢者が企業経営の調整弁とされ、しわ寄せがきている現実があります。賃金引き上げには、ジェンダー平等の実現と非正規差別をなくす運動が必須です。そして、賃金・労働条件の改善は、労働組合の交渉力を高めないう限り改善を図ることはできません。さらに

経済闘争と政治闘争が車輪の両軸として機能しないと情勢は変わりません。そしてなりより最賃引上げの大きく進めるにはそのしわ寄せを真に受けている広範は人たちが労働組合に結集して声をあげる事が大事です。

(編集委員 田中)



子供たちは知っている

〈労働組合と地球環境問題を考える②〉

労働組合が取り組む意義は、結論的には「人類のいのちと暮らしを守る」ことです。すでに子供たち世代は「気候変動は地球規模の緊急事態」と認識しています。国連開発計画(UNDP)などが18カ国を対象に実施した調査では、イタリアとイギリスが86%で最も高く、日本も81%です。18歳未満の70%が認識しているという結果です。「気候変動は子供たちが直面しているリスク。何十億もの子供たちの未来がかかっている」と事務局長はコメントしています。



す。子供たちの未来を守ることは、私たち大人が取り組まなければならない重要な課題だ

とを考えます。福岡県春闘共闘の方針にも「人類の生命と地球環境を守り維持させる上で死活的大問題です」と記述しているほどです。死活的な大問題ならば労働組合としても最大限の力を上げて取り組むべきで、そのことは「新自由主義からの脱却」「民主的な資本主義の実現」と大きくリンクしています。

(編集委員 惠藤)



YouTubeで運動チェック

「気候時計を渋谷に」
温暖化に危機感 若者運動

「Climate Clock(気候時計)を渋谷に置きたい!」「一日に何度も見れば意識も変わる」と、小型の気候時計を同区内の文化施設や商店街など、目につく箇所に多く設置することを目指しています。

〈街角なんでも相談〉

誰かが救わなくては救えない コロナ禍での「自己責任」 12月26日(日)警固公園で実施



警固公園での食料支援

昨年の12月に福岡市天神警固公園にて福岡地区労働組合総連合主催のもと福岡医療団含む多くの民主団体が参加して「街角なんでも

相談会」を開催しました。住む場所がない、食べ物がない、生活必需品がないなど、コロナの影響により様々な問題を抱え「駆け込み寺」のように相談に来られる方もいました。

2019年末からのコロナパンデミックの影響により社会、経済、生活様式も大きく変わりました。そして働く者にとっても企業・商店の廃業、倒産、失業、首切りなど生活できない、人間らしく生きて行くことができない人々が社会で表面化しています。

本来ならば、困窮された方の生存権、最低限度の生活を保障するのは国や自治体の責任ですが、十分な補償がなく救えていないのが現状です。貧困問題を「自己責任」で推しすすめることも問題です。収入が激減した方や仕事を失った方が爆発的に増えたのは社会的な構造

で作り出された貧困が原因にあると思いません。誰かが救わなくては救えない「いのち、健康、生活」があります。

非正規労働者や若い層の貧困、留学生、外国人の貧困、シングルマザーの貧困、子どもたちの貧困など社会的な構造で作り出された貧困から抜け出せない方が人間らしく生活ができるようになるために、労働組合としても医療人、一個人としても福岡地区労連の運動に結集して支援を進めていきます。

(医療団労組 田口)

今後のスケジュール

- 地域総行動・集会
 - 日時 2月18日(金)
 - 場所 音羽公園
- 全国一斉行動
 - 日時 3月10日(木)
 - 場所 博多駅予定
- 3・13いのちと暮らしを守る福岡県下一斉行動
 - 日時 3月13日(日)
 - 14:00〜
 - 場所 警固公園